大正十二年十二月二十四日第三種郵便物認可每月一回十五日發行
大正十五年二月十三日印刷納本　大正十五年二月十五日發行

光

第五十輯

大正十五年二月

◆一信に徹せば……西田天香
◆科學に關する若干の考察……三上和志
◆日誌を繰りて……八田勝三
◆供養管見……ＭＭ生

同人　懺悔報恩の奉仕者
祈願　不二の光明によれる生活
費用　供養されたる淨財

◆生死托鉢(上)……住田無相
◆鷄林だより(二)……すゞき五ろう
◆入信難に答へて……青山豐吉
◆武藏野道場の歌……磯山松男
◆英國社會運動史(四)……松下吉衞

一燈園・宣光社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は即ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく、削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

不二の光明によりて新生し許されて生きむ。

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委ね佛に養はれ他に障りなき生涯を送らざる可からず。

諸宗の眞髓を禮拜し歸一の大願に參ぜむ。

内外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆俱成就大圓覺

別願　將來世界眞平和

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず、古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

懺悔の爲に奉仕し報恩の爲に行乞せむ。

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脱るゝことを得べき。願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

法爾の清規に隨ひ世諦を成ぜむ。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生產業に即して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し、以て在家俗諦を成就せんことを期す。

即ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せむ。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天國、文明の隆興も進化の事象も乃至清規戒行も、此の見地よりすれば即ち一の遊戯三昧に過ぎず。憾むらくは、個中の消息もとよく言辭の髣髴し得る限りにあらざるを。暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尙自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその清規を守ることによりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷紛爭葛藤を根絶し、以て齊家治國平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じては即ち無相不二。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一信に徹せば

西田天香

宣光社の規範により、さゝやかな家に住んでゐる私共の生活は、外見非常に貧弱に見えます。物、自分の物、そんなものがある筈がないのです。無一物にゐて、祈りに祈る生活、此上もない無盡藏の寶を持つ、まことに如意寶珠であります。かうした生活を貧弱と見るのは、表面だけしか見えない縱に許り見やうとするからであります。體面とか名譽とか地位とか、そんなものはどうでもよい、それによる世間は往き詰つてゐる、借金だらけ、お光は芥子粒程もなくても、立派な家にゐる、するを尊いやうに思ひ、着飾るとお孃さんと見る、尻切れ草履を履くより自動車を走らす、その世間は往き詰つてゐる、そこを脫却するのであります。

貧しい生活でも人としての成すべき第一義を盡す、大事業は後の世になつて、現はれることで、開山達も十字架にかゝり難行せられましたが、その當時は、小さな事に見てゐるのですが、後に至つて大事業をせられた事を知り、今にしては、おづしにお祭りして拜んでゐる。順逆の因緣はあつても、往き詰りの家庭社會から脫して、忘恩にもならず、勝手な事をするでなく、正直にありのまゝ女房を持ち子供を持ちして、そこへ落ちつくのが私共の生活、そして一たん極樂の門へ這入つたら、こんな事でよいのかしらと、ハラ〳〵する時は、拜むやうに、拜むといふのは、自分を無くするのです。靜

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

かに拜んで三昧に入る、拜む事をまちがへるとまた妄念におちます。よく迷信で拜んでゐる事がある。私の次男が濟生病院で血を吐いた時、弘法大師を信じる人が、時々拜みに來る、南無大師遍照金剛と拜む事が實に騷がしい。有難いけれど病人はそれでまた血を吐く。そんな拜み方では、力みになつて、かへつて動搖さすのです。病人はロダンの彫刻の寫眞などに趣味があつたのですが、それを見ても强い刺戟となつて又血を吐く、風程の微動にも血を吐くやうな事になると、無邪氣がいちばんよいやうです。病人は、兄さんが一番よろしい、血を吐いても、そうかといつただけで、だまつて向ふへ持つて行くだけで心配しないで無頓着ながら却つて樂など云ひます。

拜んでゐない時、ほんとに拜んでゐる事があるのです。力んだり騷ぎたてたりして拜む事は、佛には通じぬ、靜に自分が佛と一つになるやうに拜むのです。

親鸞上人の念佛の風を見ても、感傷的なものではない、自分を忘れて阿彌陀さんと一つになる念佛である。此世でも隨分勝手しながら、あの世でも極樂へ行くやうにと、利己的感傷的の念佛は通じぬやうです。法然上人のよまれた、

彌陀頼む心は西にうつせみの、もぬけはてたる聲ぞすゞしき

といふのは、きくだにすゞしき感が致します。丈六の佛の前に坐り、西方の阿彌陀さまに向つて祈るそのうちに、うつせみのやうになり尊像があつてもなくても、丈六の佛の前とも忘れて我もなく宇宙とひとつにとけ込んで仕舞ふ涼しい境地を說かれたものです。一心頂禮、萬德圓滿、釋迦如來、眞身舍利、本地法身、法界塔婆、我等禮敬、爲我現身、入我我入と說かれてあります。自分が佛に沒入し

佛が我に入る、全く一つの姿であります。

あしたに道を聞いて夕に死すとも可なり、といふ事もあります。これも三昧境であります。かういふ境地に來れば眞宗も禪宗も同じ事であります。佛心とは大慈悲心であります。たとへ小さくてもそのお光に參加して托鉢生活をさせて頂く。道元禪師の歌に、

露草も見えぬ雪野の白鷺はおのが姿に身をかくしけり

と、佛様をよく拜んでゐる狀態であります。おのが姿とは雪の事である、そこへ自分の姿を隱す、白い雪の中へ白い鷺がおりると見えなくなる、卽ち一つになつた姿には、我はない、佛の中へ身を隱せ、隱したら、佛といふ事も忘れ果てよといふ事であります。我見をなくしてしまつたら皆佛である。おのが姿に身を隱すといつて我をなくするとて、食もとらず、返事もせぬのではない。返辭しながら、御飯喰べながら、佛の中へおのが身をかくす。喋つてゐて、喋らん事がある。よく拜みしめるとこの境地がよく解る。步いたと思はぬに澤山步いてゐる事がある。役の行者なぞは、無我て步いてゐるので、ほんとゝも思へぬ程步く。無心でやる事の中に、ほんとにおもしろい事がある。昔から發明は、懸命に考へたのであるが、考へつくしてヒヨツと、無心になつた時出來たものが多い。こんな事でよいかしらと思ふ時に、しつかり拜むのである。先きの歌の心をそのまゝに拜む。するともだゆる自分がなくなる、身を正しい處へ置き、正しい生活をすれば今死んでもよい事になります。此の世からの極樂になるのです。六祖の言葉、これはこれ大丈夫兒人天師佛の行なり、これは偉い事を云つたものです。

こゝへ來た人のうちに大願を起して來た人、また手前の身が持てずに、かりそめに來た人もあらうが、懺悔の一事は佛の行であることを自づとさとられると思ひます。私が二十七八の時分に、光修院へ管長さんを訪ねました。畑の菜園に小便をかけてゐる人があつたので、其人に管長さんはお出ですかと聞くと、私が管長ですが、何ぞ御用かと云はれます。驚きました。一度相見さして頂きたいと云ふと、書院に待つて入らつしやいと逢ふてくれました。其時の話に、ほんとの私は小便かけてゐる時です、偉いといふなら其時が一番偉い時です。人に知られる時は、もう危い。だれしもそれをよう合點してゐるなら障りはないが、といはれました。よく拜みよく托鉢してゐられると見えます。

法然上人が、もぬけ果てたる聲ぞ涼しきといふ其聲がわしだといはれた。法然上人がその遺蹟の事に付いて、相談された時、わしの墓所は、どこでも念佛のあるところだといはれた。念佛の聲のあるところわしの遺蹟である、そのもぬけ果てたる聲はわしである、と云はれたのです。法然院へ行くと此頃寺の修覆にも骨が折れるときく、昔法然上人の御修業の場所であつた時分には、今程の大きな建物はなかつたでせう。建物は大きくなつて、かへつて信心退却である、家などなくてもよいやうなものです。

政治と一燈園とは因緣が薄いやうであるが、政治の一番大事な事は、一切の國民が落ちついて平和によろこべる生活にあると思ひます。すると園生活は、政治の一番要所に安住してゐる事になります。爲政者は、自分がそこに至らないでいかめしく言つてゐる。それではほんとの物は出て來ない。私の友達に政治家で大臣に物色される程度の人が私に言はれました、自分は今は名は相當に賣れてゐる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

が、名は短い、君が居た時代に政治家に私といふものが生きてゐたと傳へられるかもしれない、一燈園生活のとなへられた時代に、こんな人間もゐた位に殘るだらうといはれた事でした。お光の力に觸れさせて貰うものは命が長い。此生活は、政治の一番要諦でもあるのです。

この生活にゐて、妻を持ち子を持ち家を持てば、それが立派な政治である、それがそのまゝ政治の骨髓にふれてゐるのです。

一燈園生活と、醫術とに付いて申しますと、一番おもしろいのは何にも通じる事です。病氣の原因もさまぐ\ですが失敗の爲とか戀愛の爲とかいふのが多い。此生活から行けば病氣の起りやうがない狀態であります。此生活に入つて病氣を忘れる人は澤山ある。他の神樣のやうに御利益よばはりはしませんがよくなるのは當然であります。それでも來た許りの新らしい方にあつては、一寸惡いと醫者へ行く大學へ行くといふが、もつと信念が判然すると、病院や醫師にかゝらいでも病氣は癒ります。當番としては、診察して貰う事も服藥する事もすゝめる場合もあるけれど、本人としては、も少し信念を堅めて、もし見てあげやうと云ふならよいが、あまりこちらから賴むのは、此生活ではない、識見がない、見て貰はいでも靜に座つて入らつしやいと云ひたい。すこしも求めずして、お光へ還つたといふのが大きいまたほんとうである。少し位ほぢくつて貰うて癒つたとは、ちと不思議である。せよと仰言ればですが、私はせいでもといふ處まで行かねばならぬ筈です。

實業家で言へば、ほんとに儲けた事は、殖えた事でなければならぬ。例へば山を買つて儲けても其金は自分のものでない、自然の惠みがなければ育ちはせぬのに、儲けたといふ。ほんとの儲けもの

は、汗を出して勞いた事たけが儲けで、手前の學識なぞ顔に出すのは、おこがましい。皆下女や家内の惠みである。托鉢の人のお世話になり、母のお世話になりして、學校に行き中半端な物を覺えて威張つて、その爲に人が犧牲になつてくれた事を思はぬのは、間違ひであります。結果の價値は皆犧牲の人へおかへしせねばならぬ。一燈園では何か御禮ごとがあればそれはどうぞお光へと出る。德や力を自分のものと思ふてはなりません。皆自分は下座につく事であります。儲けたといふやうなものは、あとかたもないものです。ただ汗かいてやらせて貰つた事だけが消えぬ尊い儲けであります。かうした生活を延長すると家も國も富むのであります。功名心や遊びの爲め自動車で飛び廻り、息子や娘にもそれを敎へる。慾望の爲にせらるゝのは罪惡である。人の反抗心をも起さしめる、資本家が自覺して一燈園の立場にゐるなら、反對は起らない、私の物じやといふ時、反抗される。神樣のもの光のものに使はうといふ時、何程預つても障りにならぬ。

私のところへある時書生さんが訪ねて來ました、いろ〳〵理窟が多うて、無一物といふてもそんな事は出來ない筈だといひまして私が眼鏡をかけてゐたら、其眼鏡を貰ひたいといふのです。傍らに手紙が澤山來てゐます、見ると私自分の用のは一通もない、どれもみな賴む賴むといふ文句なのです。よろしい、私は、私の爲に眼鏡なくても不自由はない、すると持つて行かうとして、行きかけに、もう一度其書生さんは、よろしいかと念を押されました、私は、念を押すなら此手紙へ押しなされ、私の爲に用のない眼鏡、此手紙の中に、どんな人の大切な用があるかもしれぬ、どうぞ持つて行くなら此手紙へ斷つてお出でなされといひましたら、書生さんはとうとう謝つて歸られました。私は私の爲に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

物は持ちません。死ぬ時、私は裸で死ぬのです。子孫の爲にも何にも殘す必要はない。預けられるものを、如實に預つてみるだけであります。實業家の所謂る儲けは、無理にかき集めるので、地震でも來ると、直ぐ困るのに、少しふやしては騷ぐ、お光は、だまつてゐられても正直に勘定してゐられます。或人が世界でほんとに割り切れるものはあなたの生活と、アインスタインの説とですと云はれます。アインスタインの來られた時、其説を聞いた人があまり感心をしてゐられたので、そんなに立派な説でしたかときゝますと、今迄の智識を根柢から覆したやうな力のある説だといはれます。では今迄の説は皆間違ひですかとギリギリと突き込みますと、如何にも間違ひかもしれぬと云はれます。大變頭のよい人でありましたので、それ程に感心されるのは何で割り切つたのですか、……智識で割り切つたのですか、そうです、といはれます。智識なら割り切つたのでない、割り切つたと思ふのは、あなたの思ふ容である。ドイツでは、權利を主にした法律は間違ひであるといふのを、それを飜譯して珍らしがるが、國は權利を主にしない生活をしてゐる。私が此生活を發明したのではない、ただ本來がそれである。本來に還つただけである。ヒヨツと死んでみたら解つて來たのです。アインスタインは文明をゆさぶつて居るが、智識の發明に何程の事があらう。智識に降參はせぬ。すると時計が要るではないか、時計を作るに智識がいるといふ。私は時計も要りませぬ。米が要るではないかといふ。私の命は私の爲に持つてはゐぬ。智識ではない、お光に敬意を拂はねばならぬ。ほんとの文明をみんなが創作すればよい、ある人のいはれるのに、なにも時間と金をかけて西洋まで習ひに行くやうな手數をせいでもよい、洋服が着たければ、筒袖の襦袢に、腰巻の前を縫ふて、それをはいて、そ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

の紐を腰に下げて置けばよいてはないか、かゝとの高い靴がほしいなら利休下駄の前歯を拔いたらよいではないかと。痛快ではありませんか。くだらない文化文明にあこがれてゐる、それらは一瞬に消えて仕舞ふものです。此身が既に消えて行くのです。死んでも涙する程の事もない、長々御苦勞様行つて入らつしやいでよいのである。

一燈園には藝術がないといはれます。そんな事說明するにはもうつかれました。園の淺山さんに、此頃繪をかきなさるかといふと、へーちよい〳〵書いてゐます。雜巾を洗つて、竹の棹にキチントかける、絞りがある、かすりがある、かけひの水が流れて青山が近い、繪を書くにも及ばぬと。立派な藝術論である。帝展へ通そうとて、それほどほめられて何になる。ほめてほしいやうな落ちつきのない事で何がならう。觀音の繪を書いてどれだけ拜まれる。それよりも托鉢に行つてよろこび拜み合ふのがほんとではあるまいか。托鉢は每日每日阿彌陀樣を虛空に書いて行くのである。下にくだりあやまりして見性する、こゝに特種の使命がある。光は大きい。實體は深く强く尊い。このみ前にみな謙遜に。

其形は一見貧弱にも見える。形によつて卑下せぬやう。開山達も大きなところには住まはれず、流れ流れしてゐられた。後の世にその大きさが表はれるのです。此世へ表はれてゐるのは、本來からちよつと姿を表はしたので、此世への使である。大なる宗敎、藝術といふも、みなこれはこれお光現前のすがたであります。

（大正一四、八、二一、朝、一燈園に於ける天香師講話筆記）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

科學に關する若干の考察

三上和志

一燈園は餘りに科學を無視し過ぎはしないか、とよく云はれます。然し一燈園は科學を否定してはゐないし、又一燈園生活をする事が科學を否定する意味にもならないと思ひます。と云つて一燈園は今日謂はれてゐる科學的な生活でない事は云ふまでもありませぬ。

よく『お光とは何か』ときかれる度に天香樣のお言葉を借りて『お光とは、考へると消え、默つて托鉢すればおのづとおわすものです。』と答へると、尋ねた人は案外な顏をなさる。その時『お光とは人のよい所を取つたものです』とか『人の修業する的です』とか答ふればきいた人は安心するのかも知れないけれど、それではお光の力は現れてゐません。お光の有難い理由とはなりません。

お光とは何か、と云ふ風に尋ねる人は、物を知るに當つて矢を射て的の中心の黑點に直接端的に當てやうとする程數學的な人なのです。この樣な人はお光を知る事は出來ないと云はれます。それは物を直接決定し樣とする心が邪魔をする樣です。物を直接指させば、その本體が現はれてゐる樣にも思はれる。然し自分の眼で自分の顏を見る事が出來ない樣に、自分の思考力で自分の思考力の本體を知る事は出來ない。引いて自然の一部である自分がその延長である自然の本體を知る事は出來ないのかも知れません。もし知る事が出來ることがあるならば、それは自分と自然の本體との作用交涉丈けらしい、本體と云ふ言葉を使ふのもふさわしくない程。

自分の顏を見やうと思ふと、先づ鏡を前にお

かねばならない。その様に科學萬能の人々は總てを直接に知るために、假定的な單位を總ての前に設けました。假定的な單位を鏡として總てを映ざうとしたにかゝはらず、人々は單位に映つた像を實物としたがる樣です。そんな實物と像の取扱ひの相違が時々科學上に不合理を生ずる樣です。

一を單位として出發した數學は最も科學の基本的なものであるのに、數理の上に時折『經驗外』として解かれずに殘して置かねばならない『答（アンサー）』『方程式』『數値』が現れます。又式上終に盡す事が出來ず近似値を取つて置かねばならなくなる事もあります。

今事實そのものを一とすれば、科學的計算上にも一とならねば科學を事實と云ふ事は出來ません。然し今日の科學計算では一を得ずしてその近似値〇•九九……を得るに過ぎない。相對性原理より、空間時間を認めず去つて、事實を露出したと云はれてゐますが、相對性原理を認めたところにも、尙一に達せず小數以下の九を一つ精密に增したに過ぎませんでした。相對性原理出てよりそれ以前の科學が事實ではなくして、事實の考へ方であつた事を知り得た樣に、それ以後の科學も一ではなくして事實の考へ方である事を示してゐます。

科學が未だ事實とピッタリしないものである事は科學理論（セオリー）法則を機械（マシン）なり建築なり事實上應用する時最も露骨に現はれて來る。事實に特別なる場合と云ふものはありません。然し科學には常に特別なる場合と云ふものが出て來ます。そのため機械などは運轉中止になる事もある。科學式にはその特別なる場合を含む事が出來ないと云へ、事實上に現はれて來る以上なげやりにして置いては機械は成立たない。この特別な

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

る場合を含むために設計式には安全律を加へてそれに當てゝゐます。然しその安全律の數値は如何にして出すか。これは全く科學公式はなくして、設計者のメノコ的經驗に依るのです。科學の人々はメノコ的經驗を非事實として酷く無價値に云はれますが、科學式を設計に應用(アップリケイト)する時最後の締結は尙安全律と云ふメノコ的經驗に依るのです。

建築にても古代は今日の樣に重力や强伸力學などを利用した力學的設計式はなかつたようです。殆んどやむにやまれぬ經驗的メノコ即ち以心傳心的な確かさに依つてなされたものらしいにかゝはらず、科學的方程式に依つて割出された建築とどちらが强固であつたか。その例を東京震災の時澤山見せつけられました。これは古代と近代の設計者の生活費の裕かさの相違にのみ依ると云ふ事が出來ないものがあります。

この樣に科學式で得られたものは事實の一でなくして、その近似値に過ぎない。然し近似値丈けでは建築はたゝない。で近似値を事實的一にする爲めに完全律を加へなければなりません。

科學的『一』は殆んど事實的『一』に近いのだから『一』と見なくても構ふまい、とよく云はれる。人の觀察はそれ程粗雜かもしれないが、自然はさう欺かれる譯けには行きません。時々古代の學説が新しい學説によつて覆されるのは、その微妙な事實一と科學一の違ひから生ずるのである。その事實上は化學上に最も現はれてゐます。ラヂユウム發見後金屬原子が一部分變化しつゝあり、原子價、元素數の變化を來したやうに成りつゝあります。それは根本的な變化に違ひありません。

科學の根本的な法則『不生不滅の法則』は云

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ふまでもなく、如何に科學は發達しても事實的『一』を越す事は出來ない事を示してゐます。近代科學がその道程である以上、近代科學の一は事實的一の近似値である事を示してゐるのです。『醫學は如何に發達しても自然療法に過ぎない。』と叫ばれるのは矢張り同じ樣な事を意味してゐます。

多くの科學中心生活者は、近代の科學的一は尚一でない事は事實ですが、それは科學的一が事實的一に進化しつゝある道程であるからやむを得ないと云はれる。それは實にその通りで、總ての科學發達史が示してゐる樣に、科學は科學的一を事實的一に近づける事を目的として發達してゐるし、又さう發達もして行くらしい。而も科學的な研究法卽ち分析的分解的な方法によつてであります。

然し私はさうした事の内に二つの恐しい物に突き當ります。それは二つとも科學中心生活者の科學に對する態度に就てであるが、一つは今まで述べて來たやうに近代の科學的一を事實的一と見なして平氣でゐる事です。今一つは科學的一が事實的一に近づきつゝある事が人を幸福にしつゝあり、又終にそれが一になつた時『創造が自由になされて』人は完全なる幸福を受けるであらうし、今事實的一に進みつゝある科學的一の中心には創造的分子が澤山ふくまれてゐてそれが人を幸福にしつゝあると云ふ態度です。換言すれば人は自然を征服しつゝある過程にあると云ふ態度卽ち終には人は自然を征服し得ると云ふ態度です。

事實科學的一が事實的一に近づきつゝあるやうです。然し科學的一が完全に一になつた時『創造』が果して得られるかどうか。

鏡に映した顏が鏡上の像でなくして實體であ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

つたら、既にそこには鏡は存在しない。科學から産れた物が事實であつたら、そこには既に科學は存在しません。その時鏡に就て現はれた第二の實體と鏡の前に映すべく置かれた第一の實體との關係はどうなります。科學に依つて産れた第二の事實と自然と謂ひ來つた第一の事實との關係はどうなる。こゝに第二の事實、實體と云ふものゝ中には今自然として認められる物一切の再造したもの以上のものがは入る。その時存在としてもれてゐない人間も、科學的一を事實的一にしたとは云へ、地球上の一物として再造さるべき物の起材となる。その時人間の會ふものは近代の人の考へる樂しき創造でせうか。それは明かに近代の人の考へる事の出來る恐しき自己破壞です。鏡に映つた顏が鏡の前の實體を離れて獨立に運動し、又實體なくして自由に實體を産みえたら、鏡の前の實體は自己の努力で鏡中の映顏が實體から獨立する事を計つてゐたとは云へ、第一の實體は不必要となつて來る關係に發程しなければなりませぬ。この例のやうに自然を征服しつゝあると云ふ態度の科學研究者は、事實的一に科學的一が進化しつゝある科學的一の時代にも、自己破壞の分子を多分に含んでゐるであらうし、科學的一が事實的一に到達した時は自己破壞の暗黑時代が作られます。それは自然の一部が自然の一部もしくは自然を直接的な態度で本質把持に入らうとした失敗であり、自然に乘托してゐる事の出來なかつた不敬虔者の陥落地です。

この樣に科學中心生活は人を幸福にしてゐると云ふ事は出來ません。それでは科學は人にあつては困るものでせうか。この樣な見地から科學は人を不幸にすると一概に云つて了ふ態度も廣い社會には一部行はれてゐます。然しさう云ふ事も許されません。

今こゝに科學中心の生活でない、自然の擴りに自然の推移に全く乘托した、自然に柔順な生活をするとします。直接に自然の本質を把持しやうとは思はない。自然に叛いてはならない、總ての推移につ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

つましやかにしなければならない、と云ふ生活をしてゐる群又は人々がある。その群は恐らく科學を表面に旗印の樣に押立てないでせう。然しその群でもし科學が研究されたならば、それは生活を產むためでなく、科學に依つて既に源からある自然の中の生活を說明しやうとするためでせう。科學に依つて生活を產まうとしてゐるのではなくして、科學によつて生活を說明し得るとなしたのです。こうした科學に對する態度に依つてその群は科學から完全な幸福を得るでせう。こうして科學に對する時前述の樣な恐しき科學智慧の果を食つた事にはならないのです。

一燈園はそこを願つてゐると云ひたい。科學は發達するに依つて一步々々自然と一所である生活を說明して行く程自然につゝましやかな生活でありたいと思ひます。

科學は私等の骨であるかも知れない。けど血ではありません。總てにつゝましやかな生活が血です。で私等は總てに虔しやかな生活に囚れてはならないやうに、科學に生命付けやうとする事は無駄な事です。私等は第一の遊戲として科學に熱心であれば幸です。第一義のものと思ふのは恐しい。

この樣に一燈園と科學は相入れない樣に見えますが、この樣に相入れ得、又相入れ得る事を全一燈園（一燈園と宣光社）は願つてゐるのです。鹿ケ谷を中心とする一燈園では科學を研究はしてゐません。又暫く研究しなくても好いと思つてゐます。何故ならば科學中心の生活に惱んだ人々が前述の自然に虔しやかな生活をひたすら願つて生活する所ですから。然し一燈園の體度の中には科學を研究する態度は含まれてゐると思ふ。宣光社では科學を前述の樣な立場で研究をいとひません。又しつゝある譯けです。それで一燈園は零の生活であり、宣光社は「一」の生活であると云ひたいのです。

（大正十四、一一、九、於京城）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

日誌を繰りて

八田勝三

園生活にゐることから、理智的に斯くあるべき筈だとして、自己の性格に適しないことを何とかして精進と云ふ名で押しつけて歩み切らうと思つて焦せつてゐるやうな事が時々ある。時代がどの位要求してゐても、又自分にもその必要を痛感してゐても、感情の上に於て、水と油のやうに融合しないものを一生懸命にひねくつてみた所で、結局それは精力の濫費にしか値ひしないだらう。漠然と落ちつかないでゐる同人は、今自分がどんな環境に置かれてゐるかを靜觀して、魂の成長に便利な位置を見出すが好い。それは決して我儘でなく、本當に自己を完成し、一切を成就せんと祈る者にとつて必要な事だ。どんな良い種子でも適しない土には育たないのだから……。

□

自分の言動に就いて絕對の自信を持つことは誰れも妨げない。だが自說に執して他人をもその型に入れやうとする時、往々にして人の運命をそこねる。それは人から相談をかけられたりした時などに、無意識に陷いる弊害だ。

□

一切を任せても賴つては危ないと思ふ。任せるといふ事の內には、報いを求めるものがない筈だが、

『こんなに任せてゐるのだからこの位の面倒はみて貰へるだらう』

など一人できめこんで了ふと、時には不滿も湧く。それはもう任せてゐるだけではなしに賴つてゐる氣持だから……。

此頃郁子ちやんを通じて、園の子供のしつけについてしみ〴〵思はせられる。園には大概外に子供が居ないで、大人計りに接することから、いやに大人びた子供になりやしないか？同時に子供達の間にのみ感じ合ふ喜を持たない

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

不幸に陥しゐれやしないか知ら？　臨時のパパやマヽの多いことから、無理をいつて泣いて居る時に次から次へ外の人が手を出して我儘を通させるやうになつてゐないか？　供養されたお菓子などを好い氣持て持つて歸つて與へた事が、結果としては、子供の胃腸には考へ及ばないで、自分が子供の歡心を買ひ、その笑顔に滿足せんとしたことにしか役立つてゐないことになつてゐないか？　考へてみると何も彼も練つてみなくちやならない事計りで、同人は出來るだけ細心の注意を以て子供にあたつて欲しいと思ふ。

□

犬が御座敷へ上つて來るのに腹を立てゝ後で馬鹿らしくなつた。犬が決して惡いのぢやない。さうきめ込んだ人間の智慧に自ら禍ひされたにすぎないのだ。私達は自分で掘つた穴に落ち込んで、藻がくことが可成りあるやうに思はれる。

□

仕事が多くて人の手の少ない時の方が、お互に助け合つて生きてゐるやうだ。仕事の割合に人手の多い時却つて、互助の精神から離れる。

□

御池の冬を案じて、鯉のお家が出來るとの話を聞いた翌朝、疏水の水が干されてゐた。それを勿怪の幸ひに、住居を脅かされて逃廻つてゐる小魚を捕へやうと、大供子供が大騷ぎをして居る。水の冷たいのも、着物の汚れるのもそんなことは一切お構ひなしだ。その人達には、本當に面白い愉快な事なのだらうが、弱味につけ込んですることには、好い感じを持てない。

□

こゝまで來る爲に可成り大きな十字架を負ふてとび越えて來てゐる人々の割に同人同志の間に赦し合へる心持の少ないのを寂しく思ふ。お互ひに不完全な人間なんだ。一々洗ひたてたらきりがない。せめて一寸計りでも好い所があるなら、それだけを見て行かうぢやないか。同人に要求する第一の德は寛容である。

——大正十四・一二・一〇——

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

供養管見

M M 生

一燈園のみでなく、他の宗教にわたつて用ひられて居ります「供養」の語は、沿革的には釋尊の托鉢に伴つて發つたものでありませう、釋尊等の受けられし供養には、衆生をして德を積ましむるの大慈悲を以て菩提心を祈り出す淨化の靈力が包含されてゐるものでありましたらう。從つて不德な者に對しましては伏鉢（鐵鉢を覆ふて供養を拒絕する事）をせられて強く誡められた樣に聞いて居ります、そのために供養を捧ぐるに當りましては不德なる人は、深く御詫びし慚愧したでありませう。供養は斯樣に淨く尊いものであり度いと思ひます。

園の托鉢は僧堂の作務に相當するやうでありますゝ供養は托鉢に對する賃銀ではなく元來淨財であるべきで御座います。

私共托鉢者は此點を最も銳く細密に吟味して深く禱り度いものであります。托鉢の後に供へられました財物は、それが淨財であるか或は賃銀樣の打算的のものであるかを考察すべきであります。注意を要しますは私共往相初門の托鉢者としては何處迄も謙虛の念をもつてすることであると思ひます。

平素無關心に、御受けするお風呂錢電車賃等も些末な事では御座いますが、第一義的の考察は、一微事でありませうとも眞實に求道心燃ゆるものの見逃す事の出來ぬ一大事であります。とるに足らぬ戲言かも知れませんが、「一燈園樣は十八錢ですか」等いふことを耳に致しますのは、尙一段の緊張の態度をもつて供養をお預りする要あるを示してをります。

もとより供養は、托鉢に對する代償ではあり

ません、亦直接托鉢者に捧げられたものでもありません。お光に捧げられたものであると思ひます。されば托鉢者の私有することは許されず、假に托鉢者が預らして頂くと考ふべきである事、同人の何人もが御承知の事でせう。

其處で供養を受けた方は在園の場合であれば（路頭に立つて修道の場合に對立して）假所有の機能なる典座に預つて貰ふのが原則でもあり亦多くの場合無難の様でもあります。

此場合典座は、もと／＼お光から托されて淨財の假所有に立つて居りますので、其預り方はお光の指示であり亦一歩進めてお光のまゝであるのが原則の様に思はれます。

供養にはある場合條件を伴ふことと（たとへば用途等）を想像し得られませう、一例を以て申しますれば、お風呂錢電車賃の類であります。斯様な供養が個人的（園全體に對して）の場合におきましては、一度お光に捧げて改めてお光から惠まれたものであることを感謝してあくまでも敬虔な態度を以て使はさせて頂くべきでありませう。之は修行當初の人々の特に留意すべき點でありませう。尙入浴せぬ場合のお風呂錢は、厚く感謝してお返しするか或は福田の剩餘と見做して典座に托す可きが通則でありませう。

更に個人的の供養を用途を指定の如くに使はず他に供養する場合は次の様に考へられます。

一、剩餘の福田を必要と感ぜらるゝ人に御分ちする場合、之は次の二つに細別せられます、

（イ）お光の指示を感ずる時

（ロ）其人に對する同情による時

二、必要の是非にかゝはらず其人への社交的儀禮又は功利的の感情によつて贈る場合

一の（イ）の場合は純眞無雜で至極上々でありますが、（ロ）の場合に於きましては單なる感情に終

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

りませぬ樣に照顧三省致しませぬと自他共に情に墮する弊害を伴ひませう。二の場合に到りましては礙り多く供養の私用を釀し供養其物をすら冒瀆するでありませう。斯くなりましては、園生活を意義あらしむるところの供養の淨化性を失ふに到ります。

斯樣に申しまするど、道はさう窮屈なものではないと御思ひの方も御座いませうが、求道の究竟である第一義底通融無礙の境地のあることは私も否定しませんが、往相初心の者は渺たる些事もゆるがせにすることなく吟味して、荊棘の草叢を突き進む底の修行こそ、自らなる道も開け與へられ念願倶成の大道に到り得るものと考へます。

更にお光を當番として直面する路頭行乞に於きましては、供養の扱ひ方に就きまして、在園時にもましてギリ〳〵になつて深禱する要があります。

○本號の表紙題字

五山詩僧の巨擘、絕海中津の廓庵十牛圖頌（京都相國寺藏）よりいたゞきました。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

生地托鉢（上）

住田無相

四國遍路の途中、伊豫の國のある村でHさんは不慮の死を遂げられた。彼の近親の方々のお頼みで私はそのなきがらを迎へに行つた。夜おそくついたので、その夜は驛のある村に宿つた。彼の亡くなつた村はその隣村である。私は翌日役場のあくのを待つて、朝の中に手續き打ち合せ等を濟ませ、三時過ぎから發掘にかゝつた。役場の助役さんが親切な方で始めから仕舞まで、燒場まで一緒にお世話して下された。村の人を二人雇ひ、助役さんに案内されて、埋めてある所へ行つた。山の麓に村の共同墓地がある。その北向きの谷に面した一隅に彼の屍體は行路死者として假埋葬されてあつた。赭土がまろく盛り上がつてゐた。その頭に石のかけらが十ほどおかれ、その眞中に『H…』と彼の名前を書いた棒切れが立てられてあつた。彼が京都の一燈園から立つ時に持つて出た金剛杖だ。彼が過ちをした時に、此の杖も折られて名の所だけ具合よく殘つたのである。彼の道しるべをなした此の杖が、今は墓碑銘となつてゐる。墓の前に立つたとき、私の胸は急に迫つて來た。不覺の涙が止め度なく頬を流れるのであつた。

彼の亡くなつたのは十月十四日の出來事であつた。役場と役場との間の照會に暇取れて、彼の家に通知のあつたのは、十一月二十四日の朝であつた。そのころ、私は彼のことが頻りと思はれ、案じられたので、東京へ托鉢に來たのを幸ひ、彼の母君をお訪ねすると、丁度その少し前に町役場から彼の死の通知のあつたところであつた。入園希望で一燈園へ彼が來たとき、そ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

の以前にもしばらく在園したことがあるが矢張り酒のため園としては甚具合惡いこともあつたので、此の度は天香師その他から拒まれたのを再び在園していたゞくやうにしたのは私であつた。その最初から、そして此の最後の時に到るまでの彼と私との間に織り出された複雜な關係を思ふと、それはよく〳〵の深い因緣であつたやうに思はれる。一ケ月半の間、行路死者として、淋しく冷めたく他鄕の土の下に埋められてあつた彼は、どんなにか私の迎へに來るのを待つてゐたことであらう。私は墓前に腰を踞めた。

『Hさん、お迎へに來ました、東京ではお母さまや御兄妹方が待つて居られます。さあ、早く、一緒に歸りませう。』

それから磐若心經、舍利禮文、大悲神呪を讀誦回向して、人夫に掘りにかゝつて貰つた。深く埋めてあつたので、掘り出すのは容易でなかつた。日は漸く昏れそめた。

『此の邊は何せい狐が出ますので、淺いと掘り出して喰ひますよつて、もし引き取りに來られたときそんなことがあつては申譯ないと思ひまして、せい〳〵深く埋めたのです。』と助役さんが言つた。

『かうと知つたら淺くしておくだつたに。』と人夫の一人が鍬の柄を休めて言つた。

『そやかて、狐に喰はれてゐたらどうする。早う掘れ、もう暗くなるけに。』

カチッと鍬のさきがあたつた。夕闇に棺の木地が白く出て來た。屍體の腐れ行く臭ひが、併し豫想したほどではなかつたが、掘り返される土の匂ひとまぢつて、あたりの空氣にたゞよふた。日は疾くに沒して、やがて夜にならうとしてゐる。急に冷えが身にしみて來た。

『おゝ、Hさん、さぞ淋しかつたでせうな。』と

私は棺に向つて言つた。彼が京都を立つたのは、昨年十二月の二十日であつた。彼の眼は近く、脚は惡かつた。その眼と脚を持ち、約一年の長い間を獨り遍路した彼を思ふて私は默然とした。

人夫は棺を引き出すために、まわりの土を手でかきのけてゐる。棺の中では彼の肉體は既に幾分變つてゐるのだらう。

死は淋しい。そして、その肉體は腐つて行くのだ。されど、生ある者は一度は死なねばならぬ。此の單純な事實の前には決して何人も抗ふことは出來ぬのである。偉人も天才も、美人も不美人も、そこには絶對の例外なしに死なねばならぬ。

十一月も末なので、墓山の草は枯れ〴〵になつてゐた。私の立つてゐる側に、枯れ殘れる野菊の花の五六本一かたまりになつて咲いてゐるのを見た。それが夕闇にほんのりと白く浮き出て私の眼に映つたとき、もしそれがせめて一本の樹であつたら、私はたしかにそれに抱きついたことゝ思ふ。

『生きてゐるものは美しい。』と私は思つた。死は闇く淋しく醜い。生は明るく樂しく美しい。おゝ、けれど、この野菊の花ももう數日を經ずして枯れて了ふのであらう。夕闇と共に死の暗さがひし〳〵と私に迫り來つた。私は再び棺に眼を移した。何といふ靜かさであらう。靜かさといふも最早ふさはしくない。それは『寂(じやく)』といふよりほか言ひやうのないものであらう。生きてゐる者には光彩があり暖かさがあり美がある。けれどもそれらの凡べてはやがては消ゆるものである。そこには限度がある。私は『死』を觀た。しづまり切つた底に動いてゐるその力は無量である。大闇黑の底に光つてゐるその光りは

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

無限である。『死』は深刻だ。

死にたくない。無限に生きたい。無限に生きたきが故にこそ私達は死なねばならないのだ。死なねばならぬ者が死を回避してゐる間その人は遂に死を免れることは出來ぬであらう。生死輪廻の業緣に囚はれてゐるのであらう。そしてその生活は苦と恐怖とである。『生きやうと思へば死ね。』と言はれた古來の善知識方の言葉は眞實である。小死の者は小生に入つて「輪廻する。彼の生は死に往く生である。大死底の者にして始めて最早決して再び死なぬ生と與に共なることを得るであらう。そこに於ては最早死すべき何物もが存せなくなるからである。奈何に大死のごとく見えやうとも、生の微塵なりとも止むるならば、その人はもう一度乃至數度死なねばならぬ。私達が現世を愛し生を欲するが故に、現世を捨離し生を否定するの思想をもつやうになつたことは、悲しい逆理のやうではあるが、それは決して誰の惡戲でも逆理でもない。すべての祖師方がその奧義に於ては必らず大死大否定を說かれたことはまことに〳〵深い眞實であると思ふ。かやうな祖師方は彼自ら生死の問題に深く痛み惱んだ極こゝに永遠なる生命を見られたのであらう。それは彼自身の深刻なる苦惱を通じた體驗である。そこに觀た生命は今の世の所謂識者の謂ふごとき精神的滿足とか、主觀的安心とかいふごときものではない。主觀と客觀、物と心とが分裂し對立して居ればこそ惑迷があり生滅がある。それら一切の對立を絕し、解脫した境涯に於ては、主觀は同時に客觀であり、物はそのまゝ心、心はそのまゝ物である。——私は此の問題を議論では扱ひたくない。幾度か死の問題に直面し、そして、折にふれては遊戲半分論議もなした。併し、今、もは

や私には迂濶な心をもつては此の問題を口にしえなくなつた。

私が『死』の瞑想に沈んでゐる間に、棺は二人の人夫によつてしつかりと繩かけられた。私は野菊の花を取つて棺の上に挿した。すつかり夜になつた。黒い雲が山の背から現れて月を覆ふた。燒場は此の山を下りて、田圃中の道を二十丁餘り下つた海の波打ち際にある。棺はかつぎ出された。そのころから雨が降り出し、風さへ加はつて、嵐めいた天候になつた。

私は棺について歩き乍ら、さま〴〵にHさんといふ一個の人物の一生涯について思はされるのであつた。彼の家系、兩親、彼自身の生ひ立ち、生涯、思想、——彼と知り合ふた以前のことは可成り詳しく彼自身の口から私はきいてゐた。またある時は『遺言のつもりできいて下さい。』と言はれてきいたこともあつた。そしてそれは後に彼の御兄妹方から伺つたことゝ些しも違はなかつた所を見ると、彼の靈は既に何物かを豫知してゐて、まことの遺言をなしてゐたものゝやうに思はれる。

彼は非常に酒を飲んだ。そして、そのために破滅した一生涯であつたといふても差しつかえないやうに思はれる。Hさんといふ人はその本來に於ては道德的で、精神的に潔癖な性格であつた。高い教養と血統的な氣品さへ備へてゐた。よき理解力と正しきものを見る眼を持つてゐた。之れだけのよき條件が備はりながら、猶且、その一生涯の破滅的であつたことには、そこに何かゞ缺けてゐたのではあるまいか。彼の近親の人々及び私自身の觀察等を綜合して見ると、それは物事を遂行して行く上に必要な打ち克つ意志力の弱さが大きな因をなしてゐたやうに思はれる。そればかりでないことは勿論である。酒によつて生涯を自ら苦しくしたほど、それだけに飲むと皆を手こずらせたが、それでゐて彼を知れる殆んど凡ての人から好かれ、にくからず思はれるだけの一種の人德を持つてゐた。

酒を飲んだ時の彼は『手のつけられない人』に變つた。此の一つの癖のために彼は彼自身の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

悲劇を濃厚にしたやうである。一燈園に於てもこのために隨分皆が弱らされ、一燈園としては迷惑であつたこともある。併し、現に彼の屍體の入つてゐる棺に附き添ふて歩いてゐる今は、それら以上に、彼がその酒癖のために奈何に惱みつゝその生涯を過したかといふことの方が、より痛切に思はれるのであつた。

彼は酒のために彼に關係あつた殆んどすべての人を困らせ、彼自身はそのために破滅し二重にも三重にも惱み通したのである。奈何にその惱みの深かつたかを私は識つてゐる。このために彼に對する批難は隨分多かつた。彼はたしかに批難に慣してゐたであらう。けれど尠くも私には彼を批難し去ることは出來ない。

彼は彼自身に惱んだ人である。凡そこの世にあつて罪もしくは惡の名を以て鞭打たるゝ人には、世と人の苛酷なる咎を加へらるゝ前に、彼は彼自身の苦惱の鞭を受けてゐるものである。世には、自覺自責しつゝも、さて自分自身でどうすることも出來ぬ深い惡業がある。罪人惡人不良者と呼ばるゝ者の心ほど慘ましくも悲しきものはない。『酒をやめたい。之れがために自分はどんなに人生に不德をなしたことか。』と幾度彼は悲痛な告白、否、魂の呻きを私に向つて洩らしたことか。呻きつゝ遂にそれをやめえなかつた彼である。

彼が酒癖に墮ちた原因について三四の出來事を告白した。恐らくはそのすべてが眞であり、そしてそれ以外にも猶人の眼には映じえぬ事情の潜在してゐたことだらうと思ふ。その一つを私はこゝに記さう。

彼が二十二三歳のころ、相思であつた一人の女性があつた。その女が彼の兄の一人によつて子供を產まされたのである。此の一つの事件は、酒に亂された晩年に於てさへ猶且ピユーアであつた彼の、まして青年時代の性格には複雜な深刻な人生觀上の變化を與へたのであつた。彼は凡ゆる女性を厭惡するやうになつた。そして獨身を誓ひ、その通りに生涯を送つた。『俺は童貞だ』と折にふれて洩したことがある。さ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

うであつたらうと私は信じる。そして彼は妻の代りに酒を娶つたのであつた。猶その他にも三四の事情が彼をして酒を深からしむべく彼に纏縛したのであつた。此の兄なる人も、今年、五十歳を最期として彼の死に先立つて病死された。此の人も亦此の一つの出來事の後、その一生涯は內實に於ては淋しく惱ましいものであつた。自ら人と交りを避け、華やかなくらしを避けて終つたのであつた。『俺とても出世もしたい。華やかな人づき合ひもしたい心は人並に持つてゐる。併し、弟に對し、あの女に對し、また社會に對して、俺はさうしては濟まない人間なのだ。變人と云はれてかうして居ることが、切めてもの俺の懺悔だ。俺はもう程なく死ぬると思ふ。死んだあとで、弟に俺のこの心持をよくお前から傳へてくれ。』と亡くなる少し前にその妻に遺言し、懺悔したとのことである。して見ると兄は兄で自ら罪し罰してゐたのである。誰が誰を責めることが出來やう。今ごろは、恐らく、何處か私達の知らぬ世界で、此の悲劇的なりし兄と弟とは愛の涙を以て互の手をしつかと取り合ひ、まことの許し合ひをしてゐることゝ思ふ。どうかさうであつてくれるやう、私は心からの祈りを捧げる。

Hさんはまた深い自覺の起こされた度每には『俺は修羅道に墮ちてゐる人間だ』といふことをよく言つた。四國巡禮に立つた二三日前の晩、私の處へ來て可成り長い時間しんみりとさまざまのことを話された。その時にも、『今度の私の修行は本當に命がけです。修羅道に墮ちて惡鬼羅刹となるか、解脫して佛果を證得するか何方かである。今度こそは本當に大悟出來さうな氣がする。』と言つた。

以前のことは知らず、入園後の彼は、道を求めるの念には成可り熾烈なものであつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

鷄林だより（二）

すゞき五ろう

大正十四年一月二十七日に天香さん一行は、鐵道局の池田さんを東道の主として仁川へ參りました。翌二十八日京城へ歸りまして、同夜元山、咸興方面へ出發して、十二月一日夕頃、降りしきる雪の中を再び京城に歸つて參りました。同夜京城クラブに總督府、京城府を初め各社會事業家の方々が御集り下さいまして、一燈園をも少し深く殊に宣光社の方面までも硏究し度いと云ふ御催しが御座いました。席上「朝鮮の爲に一燈園にも何か具體的な祈りの形を殘して行つて貰ひ度い。」と云ふ御話も出ましたが、又一方、「朝鮮の爲に一燈園に永續的に祈つて貰ふには、總督府などの手を經てゞは無く、路頭から入つて貰ふのが一番徹底するだらう。」との議も出て具體的な案は纒らずに終りました。

十二月二日早朝京城を發つて天安に寄り大田に參りました。勝淳さん、木魚さんは此處から一足先きに京都へ御歸りになりまして、天香さん、保光さん、私の三人は、池田さんに導かれて、それから一週間ばかりの間に裡里、金州、群山、木浦、光州を急行列車の樣に廻りました。或る處では無理に豫定外の處へ引つ張つて行かれて危く汽車に飛び乘つて、甲曰く「こうなると一分二分でも大切ですな。」乙曰く「こうならなくつたつて大切なのさ。」一同「アハヽヽ」と云ふ樣な會話が、獨樂の樣に忙しく驅け廻つて居る皆を時々腹の底から笑はせました。七日の夕方大邱に着きましたら、朝鮮人で六七年も前から同人である李命錫さんや、鹿ケ谷で去年の春まで御兄妹で托鉢して居られて、今は

御家へ歸つて農園を開いて居られる許範さんと禮粉さんや、其處へ四月以來托鉢してゐて下さる鈴木八重造さんや、その方々の御友達十人程が御出迎へ下さつて、久し振りでお互に無事な顏を見合ふことが出來たのは、今度の旅のうちで最も大きな悅びの一つで御座いました。翌日は、此の方々の御心盡しで朝鮮料理の晚餐會を開いて下さいまして、夜は公學校で特に朝鮮人の方の爲に李命錫さんが通譯をして下さつて講演會が催されました。しかし、その會場で許範さんが私に耳かれました。『今夜の聽衆は公學校の生徒とその父兄ばかりで、私共が天香さんのお話を特に聞いて貰い度いと思ふ朝鮮の靑年達は、主催者が總督府だと云ふことを聞いたゞけで、講演者が如何なる人かを考へて見樣とする興味さへ失つて仕舞ひます。これが私達の主催であつたならば、朝鮮人は思想問題には隨分深い興味を持つて居るのですから、さう云ふ靑年達が一杯集るのですが……」と。先夜京城クラブの御集りの時に、「朝鮮の爲に一燈園に永續的に祈つて貰ふには、路頭から入つて貰い度い。」と云はれた、Hさんの言葉も想ひ出されて成程と思ひました。何處にこの問題の根はあるか？　私達は深く反省しなければならない。私は朝鮮に來て見て、今此處に書くことの出來ない樣な多くの事件が內地人の手に依つて行はれた悲しむべき事實を知つた。私達は朝鮮の兄弟達に對しても、水平社の兄弟達に對すると同じ樣に深く懺悔するのでなければ、到底內鮮融和などは望み得べきでない。この日本にとつて最も重大な問題の和ぎの種子として、一燈園が御役に立つことが出來たならば如何に光榮であらうか。私は心からそのことを念願せずには居られませぬ。

九日の朝、つきぬ名殘りを惜んで大邱をたち釜山へ參りました。十日も例に依つて一日四回の講演を强行して、無事に全鮮に亘つて二十日間四十四回の講演托鉢をつゝがなく終ることが出來ました。

十一日には些か慰勞の意味もあつて朝鮮の奈良とも云ふべき慶州を訪れ、新羅朝千年の舊都の跡を弔はせて頂きました。朝釜山を發つた一行は、大邱で輕便鐵道に乘換へ山脈と山脈との間に蜒蜿と開けた平野を走ること四五時間で佛國寺驛に着きました。直に東方十餘町の松林中に古雅な文武大石人に護られた、新羅朝の代表的古墳の一である掛陵を拜して、夕闇に古き昔の榮華を囁き顔の佛國寺山門前の佛國寺ホテルのオンドル部屋に、溫い夢を結ばせて頂きました。

十二日は未明に起きて、皓々たる有明の月に照されながら吐含山腹二十町の山路の霜を踏んで石窟庵に詣でました。折から山又山の彼方、茫漠たる日本海のあたりから輝き初めた黎明の光りは、窟内中央に晏座し給ふ一丈一寸の釋迦如來像を初め、周壁の花崗石に薄肉刻に刻された四天、四菩薩、仁王、十大弟子の奇しくも妙なる御姿に、千二百年このかた變らぬ朝の禮拜をするかの樣にほのかに入つて來ました。おゝ、釋迦如來の萬德圓滿の御姿！ おゝ、十一面觀世音菩薩のしゞまの大覺のうちより輝き出づる大慈大悲の御相好！ 天香さんは御燭の前にあつた小さい木魚を捧打しながら何經かを默誦して居られる。この窟内の諸佛に向ひ合掌し禮拜することしばし、自ら氣澄み心落着いて、さながら一法界に安住するの思ひがある。これは單なる技巧の力ではない。これを鑄刻した人の心の深さと信仰の力とが、この佛像を通して脉々として今現に私達の心に生きて働いて居るからであ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

る。私は人間が創つた藝術品に對して自然が禮拜する姿を、石窟庵の佛像に依つて初めて見せられました。これこそ東洋一の美術品と稱えられて居るのも決して誇稱では無いでありましよう。

素晴らしいものに觸れた後の夢みる樣な涙ぐましい心地で山を下つて、朝食を頂き、典雅な佛國寺を早々に拜して、又輕便鐵道で慶州驛に下車いたしました。先づ慶州遺物陳列館に參り、館員の方の懇篤な御解説の下に新羅朝時代の精巧なる瓦磚類、古墳より發掘された寶冠、勾玉、その他無數の黃金の裝飾品類、或は十二萬斤の金銅をもつて鑄造した奉德寺鐘の壯麗な形と優雅な彫刻とは唯眼を驚かすばかりでありました。

陳列館を辭してからは、時間が無い爲に乘合自動車で郊外の古蹟を見物させて頂きました。新羅初期の王金氏の祖先の發祥の地であつて、後朝鮮の別名として稱ばれるに至つた鷄林は、今だに神聖林として保存されて居ります。その北方に在る瞻星臺は千三百餘年前、羅王二十七代善德女王の時代に全部花崗岩を以て築かれた天文臺であります。鮑石亭址は新羅王が流觴曲水の宴を張つた址であつて、未だに花崗岩を以て造られた鮑形の溝は千年の覇者の華かな夢を物語り顏に殘つて居ります。その他、太宗武烈王陵の前に在る美事な龜趺の彫刻、彼處此處の田畝の間に巨大な礎石のみ殘つた堂塔伽藍の面影、數ヶ所に在る築城泉池の跡。凡て是等の物は千數百年以前に於て朝鮮民族が如何に高度の文化と富力を有して居たかと云ふことを明かに實證するものであります。私達は、現在の朝鮮の文物を見て動ともすると輕蔑の眼を向け樣としますが、これは李朝五百年の惡政の爲に國民

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

性が全く萎靡沈滯して仕舞つた結果であつて、その本來の面目に立ち直る時には第二の新羅朝文化をも建設すべき要素を持つてゐる民族であると云ふことを知らなければならない。慶州の遺物は、私にこの事をはつきりと教へて、私の心の裡に朝鮮民族に對する尊敬の念を一層深めて呉れました。

私共は幸に比較的短い時日の間に朝鮮全道を汎く歩かせて頂き、上下各方面の方々に接觸して、現在の朝鮮そのものを良く知ることが出來たと共に、樂浪、慶州等に於て古代文化發達の跡を目擊して、その民族性の裡に如何なる尊き種子が含まれて居るかをも會得することが出來ました。私共は今後出來得る限りの機會に於て、内地人が朝鮮の兄弟に對して深く懺悔し、且つ尊敬しなければならないことを宣べ傳へよう。そして勿論、自分達も一層深くその祈りを實行させて頂こう。左樣したら朝鮮の兄弟達も、心を柔げてきつと反省すべき處は反省して、お互に拜み合ひ、手をとり合つて世界眞の平和の念願に向つて共に歩んで下さる樣に成ることを信じます。朝鮮に對する一燈園の御奉公はこれからであります。私共は、今度の講演托鉢に依つて朝鮮の兄弟達と一燈園との間に、深い結緣の機會を與へられたことを心から感謝するので御座います。

筆を擱くに當りまして總督府、鐵道局、修養團を初め一方ならぬ御配慮を頂きました皆樣に厚く御禮を申上げます。そして、短時日の間に倉惶たる旅路であつた爲に、時間も無く疲勞もしてをりましたので思ひがけぬ多くの障りを作つたであらうことを深く御詫び申上げます。

一五、一、八、鹿ケ谷にて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

『入信難』に答へて

青山豊吉投

『皆様どうぞお教へ下さい。信仰といふものは全體どうすれば獲られるものでせうか?』とて『入信難』の苦しみの御辭につきて、かう答へては如何でせう。信仰とは『どうする』ものではない。『させられ、導かれる』ものであらう。『獲るもの』でなく、『授けられる』ものである。『どうすれば獲られやう』との願と努力が、或る點に達して、因縁攝理の爲めに、心機一轉して、『かく、させられ、かく授けらるゝ』時が來るであらう。その時、信仰を獲て、且つ悟り、且つ證することが出來やう。一燈園にては之を御光りといふ。

『天に踊り地に躍る法悦が、私達に獲られるものでせうか』との尋ねは、既成宗教によつて法悦が與へらるゝ者は之を獲て安んじつゝあるが、之に安んじない求道の人々は、之を求むる爲めに苦しみ惱むのである。信仰心は人類に授けられたる特性でありますから、舊きものに安んじない時には新しいものにつき求め尋ねてやまぬ。求道心が盛んなればなる程、その人は苦しみもたゆるのである。或は地に潜み或は艱難の裡に之を尋ぬるに至る。かくして一旦光明に接する時、心機一轉、更生の期に際會せる人士は、御恵みも一しほ痛切に感じて、天に踊り地に躍る喜びに達するのである。求むることの熱心が薄ければ喜びも少く、熱誠が篤ければ喜びも大きいのは當然であらう。

『虚僞、形だけの修道』との御尋ねはあまりに現世の形式、善惡、等の判斷に重きを措き過ぎて居りませんか。現世の形式、善惡の判斷、得失も眞の一面であらう。さり乍ら他の一面に於て、無限、永遠の一面を悟入する時には、心恬淡として、すべての世相にゆるし合ふやうになるであらう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

武藏野道場の歌（下）

磯山松男

托鉢

この四五日眼立ちてやけし腕のいろ湯より上りてさすりつつゐる

秋の日に赭くもやけてたくましき腕とぞ思ふ電燈の下

松下さんへ

話聲すると思ひて振り向けば黒き衣の人ふたりゆく

こゝにわれのありてふことはしらざらむ夕光(かげ)にして人の後姿(うしろで)

思ひ見てさびしきものかすぎゆきて途にかくるる人のうしろで

夜景

家居する人はるかなれや武藏野の夜の灯影のたゞひとつ見ゆ

武藏野の村居木立のふかくしてかすかなるかも夜の灯影は

晩歸

かへりゆく暗き村道おぼつかな秋夜(しうや)の星にすかし見にけり

このごろは暗きになれて村道をかへるにやすし滿天の星

菜園

むさし野は土くろぐろとやはらかく深墾(ふかはり)にして畑をつくるも

ふかぼりに土やはらげて播く種子のひとつひとつのいとほしさかな

新墾の畑ぞといふに菜を植ゑて青々しかもその一隅は

芽ぶきたるほうれん草見れば正月の雜煮の餅のおもほゆるかも

大根の芽立ちはやさししかれどもすりてのからさ口にひゞくを

ゑんどうの芽ぶきを見ればうらうらと眠き春日が戀ひしくぞなる

花壇

くさぐさの種子(たね)をおろして黒土のそのいつくしさ今か知りなむ（谷田部さんへ）

來ん春をまつとにはあらず花の種子土におろして足らふ心を

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

英國社會運動史（四）

松下吉衛

結社禁止法撤廢運動

結社禁止法に對する撤廢運動は、やがて必然に開始された。賃銀勞働者間に遍在的になつて來たこの要求の眞實な體現者を、吾等はフランシス・プレースに見出すことが出來る。以下彼れが意味深き略傳をものしつゝ、撤廢運動の眞相に觸れて行かう。

フランシス・プレースは、初め、ズボン製造の一職人であつた。後、獨り立ちになつてロンドンのチヤアリング・クロスに親方裁縫職として店をもち業務は可なり繁昌した。しかし、もと〳〵ベンザム及びゼームス・ミルの學徒であり、産業的自由と政治的民主制とを理想としてゐた彼は、一八一八年以後、家業一切を子息にまかせて、結社禁止法の撤廢運動に畢世の心血を濺いだのである。彼れの店は、一八〇七年頃から一八三四年頃まで、社會運動家の公認集會所の觀を呈して居つた。

一八一四年、プレース自らが書いてゐる通り、彼れは『勞働者のために結社禁止法の撤廢運動を可なりな熱誠をこめて始めたのであるが、殆んどこれぞといふ反響なしに初めの幾年かは空しく過ごされたのであつた。』卽ち、雇主等は、勞働者の團結をもつて、賃銀の增加を促し引いて彼等の收益を減少せしむるものとなし、一般政治家も亦、職工組合運動は必然に物價の騰貴を來さしめ、その結果、大英帝國繁榮の大源泉たる海外貿易に致命傷を與へるであらうと信じ、勞働者それ自身までが、最初、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

この運動に何等の助力を貸さないのみか、却つて政府側に加擔してゐたくらゐであつた。一例を擧ぐれば、一八二四年、プレースが結社禁止法撤廢に對する請願の提出をスピタルフォールドの機關絹織工委員會に勸誘した時、同會は次のやうな決議を通過した、『吾等は有用なる法律と聰明なる立法部とに保護されて來てをり、且、吾等の間には如何なる種類の結社もないのであるから、プレース氏の提案に對して何等の行動をもとることが出來ない。』と。この決議を議長が議場に諮つた時、贊成の聲は一齊に起り多數者は『法律に依るべきである、法律は吾等を保護するから。』と叫んだ。しかし、プレースは、かうした冷淡と反抗とに面しながらも、初志を貫徹せんとする熱誠は更に衰へず、英國の民衆を動かすには、抽象的な理論によるよりも、寧ろ不正の實例を列擧するに如かずと信じ、力の及ぶ限りあらゆる職業に亘つて勞資間の紛爭を詳細に調査した。彼れは、これがために、機會ある毎に、職工の盟友として同盟罷工に關與し、全英國の職工組合との通信を始め、又、各地の諸新聞に投書した。梳毛エウェードに依つて起された、勞働階級の政治的一小新聞『ゴルゴン』は、彼れのために有力な仲介者となつてくれた。彼れの事業に彼れの手足となつて働いたチエー・アール・マカロック及びヂョセフ・ヒユームと相知るにいたつたのは、この『ゴルゴン』を通してゞあつた。マカロックは、一八二三年、プレースの提供した事實に基いて一論文をエディンバラ評論に寄せたが、その結果、多くの同志を得られた。尙マカロックが不斷の論評は、プレースの思想と運動とに、學問的根據を與へ共鳴者を産むにずゐぶん役立つた。又、ヒユームは、當時勃興しつゝあつた哲學的急進派の一方の重鎭であり、その下院に於ける地位はなか〳〵有勢であり、進歩的議員の間に、結社禁止法撤廢運動に對

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

する援助者を少なからず見出すにいたつたのは、主としてその力によつたものである。

一八二二年、プレースは、四圍の狀況より察して、撤廢運動に火蓋を切るの機まさに熟せりとなし、ヒユームは、院內にあつて之れに策應して起つた。

プレースの手翰及び草稿によれば、ヒユームが彼れと內外相呼應して如何に巧妙に此の問題に對したか、又如何に之れが爲に苦慮したかゞうかゞひ知られる。幾多の曲折を經、なみならぬ奔走の結果、一八二四年二月、遂にヒユームの計畫通りに、特別調査委員會が組織されることになつた。ヒユームは殊更に彼れの動議中に、三個の問題、卽ち、職工の移任、機械の輸出、及び結社禁止法の撤廢を含ませた。プレースとヒユームにとつては、もとより、結社禁止法の撤廢が唯一目的であつたのであるが、一部の委員等は、同委員會の調査目的か、海外輸出の禁止によつて著しく阻害されて居る機械製造業の發達を計るの可否にあるものと考へて居た。一委員の如きは、ヒユームをして結社禁止法に關する問題を委員會の附託事項から除かしめんとさへした。最初は、何人もこの委員會の議事の進行が、何等重要な結果を持ち來さうなどとは豫期せず、從つて政府は委員の人選についても別段留意しなかつたのである。プレースは書いて居る、

『ヒユーム氏が委員會を組織するのに、二十一名の代議士の署名を得るのは容易でなかつた。然しながら、委員會が三日間ひらかれて非常な評判をとつた時、進んで委員會に加はらんとした代議士が續出した。委員の數は遂に四十八名の多きに達した。』

プレースとヒユームとは、今や、その全時間を委員會の統制に捧げた。委員會の議長に選擧されることになつたヒユームは、議事進行の全權を自己の掌中に握つた。委員會の調査目的の說明書は、四十地方都市の市長もしくは他の公吏に送られ、又、主な地方新聞に掲載された。今や、勞働者階級の首領達の全信任を博するに至つたプレースは、英國各地から證人となるべき職工を得るに何の困難

もなかつた。

プレースの手記やヒユームとの日毎の通信によれば、この委員會の議事進行の模樣こそ、殆んど完全な政治的操縱の範例を示してゐると云へる。プレースは書いてゐる、

『勞働者の代表者等に私は自宅を開放した。私は、すべての都市と地方との代表者を私の監視の下に居て貰つた。私は彼等が述べんとする事柄を聽き、彼等を試問し、各事件の要點を書き取り、要領書を作成した。それから、證人の手引としてその寫しを彼等に渡した。要領書には主要な問答が含まれてゐた。ヒユーム氏に渡したものには、秩序を立てた證據と、事件全體が一見してわかるやうな簡單な說明とが附してあつた。これがためにヒユーム氏は甚だ容易に審査を進め、反對說を豫想し之を辯駁することに成功したのである。』

委員會は秘密會であつたけれど、一切の議事は、ヒユームからの詳細を極めた報告によつて、プレースに迅速に傳へられた。プレースは續いて書いてゐる、

『委員會の議事錄は、委員に配布するために、毎日印刷されてゐたから、ヒユーム氏はその寫しを私に送つてくれた。私は、多くの欄が出來てゐる紙片に索引を作り、欄毎に表題と數字とをつけた。又、印刷した證據書類の餘白には一々註釋を書き入れた。これは、毎日ヒユーム氏の秘書が寫し取つては私の手許へ戾してきた。かうした事務の整理には、可なり多大の時間を要したが、ヒユーム氏に問題全體を一目してわかつて貰ふには、是非かうしなければならなかつた。この努力と注意となしには、恐らくは、私達の目的は達成されなかつたであらう。』

これらヒユームの使用に供したプレースの手記は、今も尙、大英博物館に藏されてある。

一方、また、雜多な職工等を指導してよく機宜を誤らしめないやうにすることは、プレースにとり決して容易な業ではなかつた。彼等は偏見に充ち因襲に囚はれ、やゝもすれば委員會に出でて當然の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

陳述をなすを躊躇せんとした。プレースは極度の忍耐と異常の愼重を以て、彼等とあらゆる事柄を談合し、彼等のために一切の必要な事務を整理しなければならなかつた。プレースは、かうして三ヶ月以上に亘つて、殆んど不眠不休であつた。

彼れの犧牲は、むだには拂はれなかつた。委員會調査の結果は全く彼れの豫期通りであつた。卽ち、結社の完全な自由と移住の自由とを確保する決議が反對意見なく委員會を通過した。續いて、一切の結社禁止法を撤廢し、職業團體を合法とする法律案が、討論もなしに兩院の協賛を得られた。かうして國會內部の議員にも、國會外部の新聞にも、殆んど知られずに事件を思ひ通りに運ばせたのには、なみならぬ苦心と卓絕した政治的手腕を要したことが想像されよう。同法律案の國會通過後、數週間を經てから、ランカシャアの一町奉行が綿絲紡績工を團結罪に問うたといふ程、極めて靜肅に、寧ろ陰密の間にその議事は進められたのであつた。

結社禁止法撤廢直後の狀態　結社禁止法撤廢の結果は、英國全土の產業中心地に大なる道德的影響を及ぼした。各地の勞働組合は急速に創設された。當時しばらくの間、新聞紙は同盟罷工やその風說で充ちてゐた。グラスゴウでは重大な爭議が勃發し、綿絲紡績工の暴行に引き續いて一般的締出（ロックアウト）が行はれた。タイン及びウキャアの强固な海員組合が、組合員以外のものと共に就業することを拒みしにより、東北沿岸一體の船舶業は一時休止のやむなきに立ちいたつた。團體行動に訓練のあるので有名であつたダブリンの職工等は『綠衣委員會（グリーンクロース）』と呼ぶ聯合委員會を組織して居たが、その行動は、雇主側にとつて大なる恐怖の種子であつた。シェフキールドの職工、ロンドンの造船工、桶匠等も、賃銀增加を要求して起ち、永い鬪爭が續けられた。一新聞が書いたやうに、實に『同盟罷工を始めたのは、或る一地方の或る種の職工ではなくして、全國に亘つて殆んどすべての職工が、その雇主に或る條件を要求せんとする共通の意志をもつて團結して居たのである。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

この狀態を觀て、一八二五年の議會には、全國の雇主が一齊に奮起して職工組合の壓迫を畫策した。彼等の或る者は、リヴアプール選出議員で商務院總裁の任にあつたハスキッソンを傀儡として居た。彼れは、勞働者の行動及び最近法令の影響に對する調査委員會設置の動議を議會に提出した。委員會はやがて組織されることになつたが、委員の三分の二は役人系で、正當の意味に於いて勞働階級の代表者といつては、ヒユームたゞ一人を數へるばかりであつた。ハスキッソン等は、最初、幾人かの雇主側のみよりの證人を召喚して、他方面よりの立證は一切これを排することにし、既に準備ずみになつてゐた禁壓手段の議決を一息にして了ふ豫定であつた。然るに、かうした戰術では決して何人にも後れをとらぬプレースは、詳細な報告を每日ヒユームに送つて機宜の策を誤らなかつた。ヒユームはこれによつて雇主に拮抗し、その欺瞞極まる陳述を說破することが出來た。プレースの友人でロンドン造船工組合の幹事であつたジヨン・ガストは、ロンドンに於ける各職業から二名づゝ代表者に出てもらつて、結社禁止法の復舊に對する反對運動を徹底的に決行せんとする委員會を設立した。それから、マンチエスターとグラスゴウでは綿絲紡績工に依つて、シエフキールドでは刄物製造工に依つて、又ニユカッスルでは船員と造船工に依つて、同一の委員會が、それぞ\/、組織になつた。

調査委員會と兩院とには、各地から請願書が雨の如く注がれた。プレースの手記によれば、委員室に通ずる路は、雇主よりの不當な非難を辯明せんがために自ら進んで審問を受けんとし、または委員等を引き止めてその苦情を訴へんとする勞働者の群衆で埋まつてゐた。かうした勞働者達の旺んな氣勢は、一年前、彼等が示した冷淡と、强い對照をなした。

委員會の空氣は明かに民衆運動によつて動かされた。今は、勞働者側からの證人をも審問せねばならなくなり、しかして召喚された證人は、何れも、前年の改正法令の好良な結果を立證した。

かくて、下院は、一般普通法の結社禁止を名義上だけ復舊し、勞働賃銀または勞働時間を規定する

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ための團體は、特にこれを刑罰から除外すべき法令を通過さすやう勸告を受けることゝなり、政府も、遂に、委員會の草案に賛してヂョーヂ四世第六號法律第一二九節（一八二五年）は發布を見ることゝなつた。これは、前年、プレースとヒュームとが巧にも議會を通過させた法令には、固より及ばないものであるが、しかも勞働者に解放を齎すに役立つたことは決して少なくなかつた。即ち、團體運動によつて勞働力の提供を拒否することを含んだ意味での團體交渉權が、この法律の結果、初めて確認されることになつたのである。

『かれら互にその隣をたすけ、その兄弟にいひけるは、なんぢ雄々しかれ』（舊約聖書イザヤ書中の語）の標語を掲げた『職業新報及び機械工週報』がロンドンからヂョン・ガストを會長としてゐる勞働組合委員會の手で創刊されたのも此の年であつた。

しかしながら、一八二五年の末期から始まつて四年間に亘つた經濟的恐慌は、殆んどすべての產業を破壞して、失業者は續出し、賃銀は暴落に暴落を重ね、多くの工業地に於ける職工等は纔かに義捐金を得て飢餓を免れることが出來た。かうした狀態にあつては、同盟罷工は悉く失敗に歸せざるを得なかつた。一八二五年、ブラッドフォードの梳毛工と織工とによつて企てられた有名な反抗は、職工側の慘敗と組合の永久的崩壞とに了つた。一八二六年四月、ブラックバアンの織工は重大な暴動を起し、これはマンチエスターにまで蔓延して、一千臺以上の動力織機を破壞したが、結局、軍隊によつて鎭壓されてしまつた。一八二八年、キッダアミンスタアでは、絨氈織工が賃銀の一割七分減に反對して六ケ月に亘つて罷工したゝめに、殆んど全職業が休止の狀態に陷り、職工等は一般のものからの同情と援助とに依るの外なかつた。

かうして躍動的精神に燃えて來た勞働運動も、一時、行詰りの觀を呈し、單なる部分的團體の力では、何事も成し得ないことを勞働者等に知らしめた。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

同勞小記

敬 偉 無

元旦鎭守社頭のいのり――われらのくにわ大和（やまと）のくに、どうか人みなお大いに和がせてください。われらのくにゝ何のよきものがあるか。土地せまく自然資料ゆたかならず科學がおこらないのに、人の數わ實におびたゞしい。大和（たわ）の精神が人みなお支配しないなら、どうしてくらしが立ててゆかれよう。また世界わ今いずこといわず國わ國と集團わ集團と人わ人と、この精神がかけているばかりに、へんになっている。われらのくにゝもし世界に奉公する道があるとすれば、やはりこの大和の精神お國策の根本として立てるにあると信ぜられる。まず和するにある、何ごともながしてあらつて清くさつぱりと和するにある。どうかこの大和の精神が人みなのくらし方にまでおよぼしますように、神よみちからおあらわしたまえ！

生活改造四綱領

一　罪ほろぼしの願お立て人類の平和お祈ること。

一　互に奉仕し勞働力お賣買せぬこと。

一　さわりのない財物でくらすこと。

一　餘財わ公共事業にさゝげること。

何とかしてこれお社會的に具體化する實行方法わあるまいか。私のちつぽけなやくざなたましいわ、今、このいのりではじきれそうである。力がたりない、德がとぼしい、社會事情にもうとい。あゝ重すぎるこの任！

同憂者よ同志よ、協働同勞、いのりお一つにして立たせてもらおうでわないか。

人わ社會的存在、個我のまことなる姿が全人類の生活そのものお外にして求め得ないとすれば、獨善主義が自己催眠であり精神的サボタージであることわゆうまでもない。どんな大木でも一本でわ林おなさず、奇巖怪石の一つや二つあつたとて石垣おくむわけにわいくまい。あみだ如來の第十八願わ是非とも現代によみがえらされねばならない。民衆の安危お度外して何の宗教があるか。

同勞するこころに光あり！

精神主義者わ人間の靈性お誇大妄想し、社會主義者わまたこれお慾望のへんげなるかに誤認する傾向あり。われら共にとらず。

人間お、人間性お、社會おあるがまゝに直視し明察し正解せよ。然る後、いのりの具體化、國策の樹立はじめて成すべし。

社會運動に參加するお外道よばわりする精神主義者、人類愛お最高に値打ちずけるお空想的と冷笑する科學的社會主義者わ、共にわれらが知己ならず。

人間に靈性あるお確信すると共に社會組織の支持力お明知し、時代苦に同勞して虔しく旗お街頭に進めんとする眞人わ來らずや。われらわ悦んでそのくつひもお結ばんとする。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

近代文化と一燈園　西田天香著（代價三十錢）

內容――「お光り任せ」は消極でない……失業問題と一燈園……燈影小塾について……心の屑籠……外人の觀たる一燈園生活

一燈園生活問答　松下吉衞著（代價十五錢）

內容――きわめて平易な問答體で……一燈園生活の眞生命……修行ぶり……在園者の日常生活……諸宗教との關係……進化論觀……社會運動觀等お述べたもの。附錄、道場淸規

京都市烏丸頭下總町　回光社
振替大阪五九八三九、東京五七六七一

購讀申込所

東京市小石川區小日向臺町　文化學會
振替東京七二八〇

一燈園經要

御希望の方わ實費・送料廿二錢（二錢切手）
左記えお送りください。

東京市本所區林町二ノ七八　同勞會

●本誌創刊號第二號

目下再版準備中につき御希望の方わ此際回光社宛御申込くださいまし。

大正十二年十二月二十四日第三種郵便物認可　大正……一月十五日發行　「光」第五十…號　代價貳拾錢
發行兼印刷人　京都市烏丸頭小山下總町五回光社內　西田保太郎
編輯人　東京市本所區林町二ノ七八同勞會內　松下吉衞